

令和5年度 江戸川区立鹿骨東小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	○思いやりのある子・・・互いの人格を尊重し、心豊かな子 自己肯定感の高い子の育成 ○健康で明るい子・・・安全で健康な生活を心がけ、体力のある子の育成 ○よく考えくふうする子・・・自ら学び、深く考える子の育成 ○ねばり強くやりぬく子・・・目標をもち、最後までやり遂げる子の育成	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○笑顔があふれる学校・・・児童が学ぶ楽しさが味わえ、成長を実感できる学校、保護者や地域にとって、誇りと信頼がもてる学校、教職員が教育者として喜びが味わえる学校を目指します。 ○元気で活力ある学校・・・児童が健康・安全・安心にすごせる環境作りと体力向上を目指します。 ○創造力のある学校・・・児童も教職員も学ぶ意欲と創造力をもち、課題に挑む学校を目指します。
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞本校の教育全般については、学校評議員・地域関係者・保護者等からおおむね理解を得ることができた。おやじの会、図書ボランティア、グリーンボランティア、登校見守り、鹿骨東小学校ふるさと学習などについて地域や保護者と連携した教育活動を展開し、協働することができた。 ＜課題＞朝読書、放課後補習を日常的に行う体制を整え全校で取り組んでいるが、学力の数値目標が達成できていない。さらに特別支援教育の充実が課題である。		

教育委員会 重点課題	＜取組項目＞ ・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた 改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・「江戸川っ子study week!」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・放課後補習教室の実施・・・2年～6年生(35回) ・各学期に東京ベーシックドリル診断テスト実施及び結果を受けての指導の工夫の検討・実践 ・家庭学習期間の実施：年4回 ・オンラインドリルの利用	・東京ベーシックドリル診断テストの平均正答率が一学期より5ポイントアップ ・家庭学習カードの提出9割以上 ・3年生以上到達度70%以上	A	A	家庭学習期間は予定通り実施できている。期間中各クラスの学習状況を担任が管理できている。家庭学習カードの提出率は9割程度に達している。前回の診断テストで上がった成績が維持できている。	A	・ICTを活用した授業内容を始め、個に応じた指導をしていると感じた。 ・日々、確認と管理をし、数値目標をクリアしており、先生方の指導の工夫や努力を感じることができる。	診断テストの結果が上がり、成績が安定するように、これからも定期的に復習プリントや電子ドリルに取り組ませる。家庭学習カードについては学年だよりなどで各家庭に知らせ、継続してご協力をいただくようにする。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の充実 (読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・図書館を活用した探究的学習を取り入れた授業・・・各学期1回以上(12時間以上) ・図書館スーパーバイザー、図書ボランティアの活用による学校図書館の整備の推進 ・図書館を使った調べる学習コンクールの参加 ・巡回指導員との連携	・調べたことを成果物としてまとめられる児童9割 ・児童アンケートで学校図書館の活用に肯定的な回答9割	A	B	夏休みの宿題である、調べ学習コンクールにはほとんどの児童が出品することができた。しかし、児童アンケートの結果、学校図書館の活用に対して肯定的に答えた児童が76%(前回75%)に留まった。	A	・現在の活動を分析して、力を入れていってほしい。 ・学習発表会では、児童の主眼的、意欲的な取り組みを見ることができ、図書の活用も効果的にされていた。	「調べる学習コンクール」に作品を提出することは、これからも継続していく。読書科の活動などを通して、より深く興味・関心をもち、探究心をもてるように指導をしていく。学校図書館の利用を推進し、図書を使って調べる活動を授業内でしっかりと取り入れていくようにする。同時にインターネットで調べる良さと課題についても指導し、読書の有用性にも触れるようにす
	＜教員の授業力向上＞ ・校内研修の充実	・OJT研修の実施・・・年8回 ・校内研究授業の実施・・・年8回	・児童アンケートで、授業が分かりやすいと答える児童8割	A	A	児童アンケートの結果、前回同様94%の児童が授業が分かりやすいと答えている。	A	・楽しみながら授業に取り組んでいるように思う。 ・現在の活動を分析して、力を入れていってほしい。	4年目となる国語の研究に加え、学年会、OJT研修などで若手教員の授業力向上を目指す。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・計画的に行う体育の授業の実施 ・基礎体力向上動画の公開(運動委員会作成) ・長縄大会週間の実施 ・運動遊びの年7回	・児童アンケートで、運動をすすんでしているに肯定的な回答児童8割	A	A	児童アンケートで、運動をすすんでしているに肯定的な回答をした児童が91%(前回88%)に上った。肌寒い日でも児童は積極的に運動している。体育の研究授業を12月までに3回実施し、教員の研修も継続してできている。長縄の取組にも意欲的に取り組んでいる。しかしながら、手をつかずに怪我をしてしまう児童が散見される。	A	・運動会を含め、継続して取り組んでいる様子がわかる。 ・学校同う度に、元気で活発な児童の姿がある。相手を見て挨拶ができ、心身ともに健やかに感じる。	ボール遊び、遊具の利用など、休み時間に遊ぶ内容を増やすようにする。クラスでドンも実施する。体育のコーディネーショントレーニングを取り入れる。縄跳びマスター(年1回)や縄跳びウィーク(年3回)を通して楽しんで運動できるようにする。
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・専門員・SC・心理士・巡回指導教員・担任との連携・・・各学期授業参観・適時 ・授業のユニバーサルデザイン化の推進 ・個別的教育支援計画・個別指導計画の作成と活用	・児童アンケートで学校生活に肯定的な回答8割 ・学級崩壊なし	A	A	児童アンケートの結果、肯定的な意見が94%(前回90%)を上回った。学級崩壊もなく、児童はルールを守って生活することができている。	A	・アンケートやプログラムで内容を確認し、そのまま続けていってほしい。 ・個を尊重し、必要な児童への働きかけや配慮を感じる。誰もが一緒に心地よく過ごすことができ、素晴らしい。	これからも児童アンケート(年3回)をとり、巡回教員と担任、管理職などが連携しあって、児童が落ち着いた学校生活を送れるよう、サポートしていく。また、児童の細かな変化に気付けるように、教員は意識を高く維持して指導をしていく。校内委員会での情報共有を確実に行う。
	＜地域を生かした教育の推進＞ ・地域の自然や人材を活用した教育活動の実施	・PTAと協働した鹿骨東小ふるさと学習プログラム・・・各学年1回 ・地域を活用した学習・・・各学年年1回 ・学校応援団の活用	・児童アンケートで地域の人や自然の良さをを感じる児童9割	A	A	ふるさと学習は各学年1回実施できた。児童アンケートで地域の人や自然の良さをを感じる児童が94%(前回93%)を上回った。	A	・自然に触れた活動をよく目にする。ぜひ小さな子(保育園児)との関わりも実施してほしい。	地域の方との関係を大切にし、見守り隊の方のご協力やふるさと学習、地区班などを続けて、地域を愛せるようにする。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用 ・huyaer-QUの活用	・Q-Uの実施・・・年間2回(1回は学校独自調査) ・いじめ未然防止授業・・・各学期1回以上 ・いじめ防止「東っこ行動宣言」の作成掲示・・・通年 ・SOSの出し方指導・・・5年生年1回 ・校長講話・・・年3回 児童アンケート・・・年3回 ・生活指導太会による情報共有・・・毎週金曜日 ・スクールカウンセラーの全員面接・・・5学年 ・SSWの活用・・・全学年 ・「学級SNSルール」・「東小子どもルールブック」・「東小家庭学習の手引き」・「東小家庭学習がんばりカード」の作成と活用・・・年4回 ・情報モラルについての学習・・・各学年1回以上	・児童アンケートで地域や学校で挨拶をしているかについて肯定的な回答が9割 ・学校満足度調査(Q-U)による満足群の割合が全国平均を超える学級9割 ・いじめの早期解決 継続0% ・不登校継続数昨年度比減少	A	A	児童アンケートで地域や学校で挨拶をしているかについて肯定的な回答が93%(前回92%)だった。Q-Uの結果、満足群が全国平均を超える割合は9割に届かなかった。 いじめの早期解決はふれあいアンケートなどでできている。継続観察中は4件から3件に減り、どれも重要なものはない。 不登校児童は少なくなっている。	A	・校長室を始め、オープンな学校の印象がある。子供の気持ちに寄り添った対応が個々の心を動かすと感じる。先生方の根気と努力に敬意を表します。 ・不登校児が少なくなる取り組みを行っている。	あいさつができている児童が多いのは体感している。また、6年生にしっかりとあいさつできる児童が多く、お手本になっているように感じる。これからも維持していきたい。いじめについては、今後も早期発見、早期対応ができるよう、教員と児童の関係を大切にし、児童から信頼して相談してもらえよう、これからも注意していく。「あいさつまスター」を実施し、みんなで取り組ませる。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	＜自校の取組の積極的な発信＞ ・学校ホームページの充実等 ・学校公開の実施・充実 ・tetoruを使った情報の発信	・学校だより、学校日記などの適宜更新。 ・teamsなどの利用方法の掲載。 ・学校公開の年4回実施 ・tetoruによる情報発信	・保護者アンケートで、学校は保護者に適宜情報を発信していると思うかについて肯定的な回答8割	A	A	保護者アンケートで、肯定的な意見が93%に上った。紙でのお便りの配布に加えて、ホームページの更新やtetoruの送信などを適宜に行っていることを評価された。	A	・tetoruがこまめに配信され、学校の考えや配慮を感じることができる。保護者の安心感に繋がっていると思う。 ・学校公開の回数も多く感じ、参観などで様子も分かる。また、ホームページや手紙などで様子がわかる。また、学校評議員会でも内容を分かりやすく説明。	紙でのお便りに加えて、tetoruの配信やホームページの更新をしていることが良いと思うので、その両方をこれからも続けていく。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・年2回の学校関係者評価の実施 ・年末年始に次年度での改善事項の選定 ・年3回の学校評議員会の開催	・教員アンケートで昨年度の反省が生かされているに肯定的な回答8割	A	A	教員アンケートの結果、肯定的な意見が100%だった。前年度の反省をしっかりと生かすことができている。	A	・教員アンケートが100%肯定的というのは素晴らしいと思う。校長先生の思いや考えが全職員に浸透している。見習いたい。	反省を生かすとともに、働き方改革にも取り組み、水曜日に校務をする時間をとるなど、より良い環境で働けるように工夫をしていく。
特色ある教育の展開	＜小中連携教育の推進＞ ・「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・連携教育プログラムに基づいた小中の授業協議・・・年3回 ・うち6年生の体験授業・部活体験の実施連携・・・年1回	・児童アンケートで中学生になることに希望をもつ児童(6年)9割	A	A	年3回の小中連携を滞りなく進め、交流を深めることができた。児童アンケートで中学生になることに希望をもつ児童(6年)が98%に上った。1月時点で小中連携は2度実施した。	A	・希望をもつことができる環境作りに中学校と共に努力されている。	2月の小中連携は実施できた。来年度も3回行う。これからも卒業後に児童が中学校生活に戸惑わないように、期待をもたせていく。
	＜SDGs教育の充実＞ ・持続可能な社会を創造することを目指す教育活動の実施	・もったいない運動の取組実施全学年 ・環境を考える学習：各学年1回以上 ・6年生のSDGs実践及び発表年1回	・児童アンケートでもったいない運動への参加に肯定的な回答8割	A	A	児童アンケートでもったいない運動への参加に肯定的な回答が90%ほど(前回88%)だった。6年がSDGsの実践と学習発表会での発表、募金活動を実施した。	A	・学習発表会では、SDGsへの取り組みについての発表もあり、よくわかった。 ・発表を拝見し、子供たちが主体的に学習していた。	SDGsについて理解が深まるように、そして児童が主体的に学習できるよう、これからも授業と絡めて指導していく。